

令和元年度淀川区区政会議
第2回コミュニティ力向上部会

日 時：令和2年1月14日（火）

午後6時31分～午後8時31分

場 所：淀川区役所5階501会議室

○久保政策企画課長

皆さん、こんばんは。定刻を過ぎておりまして、すみません。ただいまより令和元年度第2回淀川区区政会議「コミュニティ力向上部会」を開催させていただきます。

私は、本日の進行を務めさせていただきます、淀川区役所政策企画課長の久保と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、若干の注意事項を説明させていただきます。会議は公開となっておりますので、議事録を作成するために録音をさせていただきます。それと、若干今後のよどマガ等PRのために写真撮影もさせていただきますので、よろしくお願いいたします。なお、携帯電話は電源を切るか、マナーモードに切りかえていただくよう、よろしくお願いいたします。

本日は、昨年の10月の委員改選後初めてのコミュニティ力向上部会となります。皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の資料をまず確認をさせていただけたらと存じます。着座にて失礼します。

まず、冒頭に次第と書かれました、本日の流れ。その裏面に進行表をつけております。①から⑧という形で進めていきたいと存じます。

続きまして、配付資料一覧と箇条書きに書かせていただいたもの。その次に、コミュニティ力向上部会の名簿をつけております。その裏面には本日の座席表をつけてお

ります。さらに、淀川区政会議委員紹介名簿を、皆様から頂戴した情報をもとにつけております。

続きまして、SDGsの達成に向けた大阪市の主な取り組みということで、両面につけております。

次に、本日時間の関係等、もしくはその後ということで、本日の質疑等についてのご意見表をつけております。それと、よどマガの最新号1月号、それと、昨年11月以降に新転入者の方に無料で渡しています、くらしの便利帳、それと、質問票を返信いただく返信用の封筒をつけております。それと、よどまち未来セッションからのチラシもつけさせていただいております。

委員紹介名簿につきましては、皆様からいただいた情報をそのまま記載させていただいておりますが、もし誤植等、もしくは情報が古い等の修正等がありましたら、本日お申し付けいただきましたら、次回3月の全体会議までに修正をさせていただきますと思います。

続きまして、事前に御自宅に郵送させていただきました資料で、本日お持ちいただいているかと思う資料です。資料1が、本日説明させていただきます、令和2年度淀川区運営方針の概要版（案）、それと、資料2、本日皆様に御意見をいただきたいということで、事前にお渡ししています、御意見を伺いたい内容、それと、平成30年度淀川区運営方針について委員の皆様からいただきました評価シート（結果）と書かれているもの、それと、A3の横版になりますが、運営方針に関する御意見の対応方針、それと、今年度実施しました、第1回の淀川区民アンケートの集計結果、この5種類を事前にお送りさせていただいております。本日お持ちいただいておりますら、御用意いただきまして、もしお持ちになられていない方がいらっしゃいましたら、こちらでお持ちしますので、お申し付けいただけたらと存じます。よろしいでしょうか。

なお、評価シート、並びに資料4の御意見への対応方針につきましては、事前に送

送付させていただいておりますが、時間の関係上、本日は個別に説明は行わない予定です。内容について何か御意見がありましたら、会議での質疑の時間なり、もしくは御意見表でお伝えいただければと思いますので、よろしくお願ひしたいと存じます。

それでは、資料の部会名簿に戻っていただきまして、部会名簿の裏面が、先ほど言いました座席表になっております。御参照いただきたいと存じます。次第でも、本日、第1回目のコミュニティ力向上部会ということで、議長と副議長を、この後選任という形で進めたいと存じますので、この部会の名簿を御参照いただけますでしょうか。

まず、本日委員改選後第1回目の部会となっておりますので、自己紹介も兼ねまして、簡単に皆様から一言ずつ御挨拶を頂戴したいと存じます。

それでは、委員の方々、五十音順に配列いただいておりますので、まず奥委員のほうから、すみませんが、一言お願ひいたします。

○奥委員

十三地域から選出いただきました、奥と申します。よろしくお願ひします。ちょっといろいろ書かせていただいていたんですけれども、地域のコミュニティということに関しては、いろいろ自分なりに興味もありまして、大阪市の男女共同参画審議会の委員もさせてもらったりとか、府のほうは人権擁護士をさせてもらったりとか、いろいろ勉強させてもらって、民生委員の主任児童員をさせてもらってからは、虐待のことに関しては非常に興味があったりと、まちの中のことで、いろいろとなんでやろうということを一生涯懸命もがきながら走ってきたのかなというふうには思っています。ここでもいろいろな勉強をさせてもらえるのかなと思って楽しみにしておりますので、ぜひよろしくお願ひいたします。

○久保政策企画課長

ありがとうございます。続きまして、光在委員、お願ひします。

○光在委員

加島地域活動協議会から参りました、光在文子と申します。よろしくお願ひいた

します。2期目とはいえ、まだまだという感じです。いろいろ皆様に教えていただい
て頑張っていけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○久保政策企画課長

ありがとうございます。中井委員、よろしくお願いいたします。

○中井委員

木川南地域の中井源太郎と申します。コミュニティ力向上部会ということで、私も
地域、学校、過去この地域で小学校・中学校あるいは地域の活動、防災員活動等を踏
まえて、その経験等の中で、狭い経験なんですけれども、いろいろな皆さんの御意見
とか、各18連合さんの地域の全体のこともお聞きした上で、また地域に戻ってそれ
を皆さんにお伝えをするという役目を果たしていきたいなとは思っております。よろ
しくお願いいたします。

○久保政策企画課長

ありがとうございます。福岡委員、よろしくお願いいたします。

○福岡委員

私も、今回2期目でございまして、前は安全・安心なまちづくり部会に参加をさ
せていただいております。今回はコミュニティ力向上部会ということで、できるだ
け建設的な意見が述べられるように、勉強していきたいと思っておりますので、一つ
よろしくお願いいたしますと思います。

○久保政策企画課長

横山委員、お願いします。

○横山委員

公募選定委員の横山和徳と申します。東三国に住んでおりまして、以前は会長なん
ですね。今は地域児童員。仕事としては以前に新聞販売店をやっております、地域
のことを東三国の中でも知っているつもりですので、昨年の経験とかをここで役立
てればという思いで応募しました。ほかの地域のことも勉強しながら、少しでもまちの

力になれたらと思いますので、どうぞよろしく申し上げます。

○久保政策企画課長

なお、本日、木川地域の川阪委員におきましては、地域の地域活動協議会の会合のために御欠席となっております。なお、北中島地域の和田委員につきましても、所用のため欠席となっております。宮原地域の山本委員につきましては、到着がおくれているようでございます。

それでは、続きまして、コミュニティ力向上部会の所管事項を関連する業務を担当している区役所側の職員から、一言ずつ自己紹介をさせていただきます。

○西総務課長

着座で失礼いたします。総務課長の西と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。総務課長ということでございますので、区役所の庶務、経理、予算、人事、選挙・統計事務など担当しております。また、平成26年度から平成29年度まで政策企画課長ということで、区政会議のほうも担当しておりました。相当お世話になっている方々もきょうはお越しいただいております。どうぞ引き続きよろしくお願ひいたします。

○久保政策企画課長

私、政策企画課長の久保と申します。コミュニティ力向上部会の関係では、広聴、広報関係、あと本区政会議の担当という形で進めさせていただきたいと考えております。あと、新規の業務でいうと空き家の関係とか、もろもろ政策企画課のほうで担当しております。よろしく申し上げます。

○畑中市民協働課長

市民協働課長の畑中です。私のほうの担当につきましては、本日のコミュニティ力向上部会のまちづくりになっております。もう一つ大きいので、こちらの部会ではないんですけれども、防災の関係という形で活動のほうを担当させてもらっています。よろしく申し上げます。

○山崎市民協働課長代理

同じく市民協働課長代理の山崎と申します。安全・安心なまちづくりと防災・防犯の担当をしております。よろしくお願いいたします。

○尾川市民協働課担当係長

すみません、淀川区役所市民協働課の係長の尾川です。私のほうはまちづくり支援の関係であるとか、青少年育成の関係の担当をしております。よろしくお願いいたします。

○宇城市民協働課担当係長

お世話になっています。市民協働課の担当係長をしています、宇城といいます。私のほうは、地活協のほうを担当しております。よろしくお願いいたします。

○藏本政策企画課担当係長

事務局の担当係長の藏本と申します。区政会議と運営方針の担当をしております。新任の係長で至らないところも多いかと思いますが、よろしくお願いいたします。

○山本政策企画課担当係員

政策企画課の担当係員の山本と申します。区政会議のほか、空き家の関係であったり、ほかの業務も担当しております。よろしくお願いいたします。

○波越政策企画課担当係員

同じく担当係員の波越と申します。よろしくお願いいたします。担当は区政会議の事務局と、運営方針を担当しております。よろしくお願いいたします。

○久保政策企画課長

それでは、今回につきましては、午後8時20分をめぐりに、遅くとも8時30分までには終わってまいりたいと考えておりますので、スムーズな議事進行の御協力をよろしくお願いいたします。なお、発言、説明の際には、できるだけ簡潔にまとめていただきまして、よろしくお願いいたしますと存じます。

それでは、先ほどの次第に戻りまして、議長、副議長の選出という形で、移りたいと思います。10月からこの新しい委員の改選を受けまして、今回コミュニティ力向

上部会の第1回目ということで、規定によりまして、議長、副議長は互選により選任するという決まりになっておりますので、皆様のほうで議長、副議長をお決めいただくという形を考えております。いかがでしょうか。

○福岡委員

奥さんがやってください。

○奥委員

山本さんが来てはりませんやね。来はるんですよね、山本さん。

○久保政策企画課長

はい。今日は欠席とは聞いておりません。

○奥委員

互選というのであれば、これから来られるのをお待ちしてからで、互選しておいたほうがいいんじゃないでしょうかね。せっかく来はるんであれば、来はる以上は互選に入れてあげないと思ったりするんですけれども、いりませんか。

○福岡委員

間に合わない。

○奥委員

間に合わないんですか。

○藏本政策企画課担当係長

山本さんは昨日の時点では来られるということだったんですけれども、今の時点で連絡がつかないんです。ただ、御本人、余り体調がよくないので、ここに来て、多分御自身でということはおっしゃられないと思うんです。という中で、御欠席の2名に関しても、いらっしゃる方の互選でお任せしますというコメントもいただいているので、できたらこのメンバーで決めていただけると。

○奥委員

1年目で経験がないので。

○福岡委員

せっかくの御指名なので、お願いいたします。

○奥委員

よろしければ、させていただけたらと思います。

では、よろしくお願いいたします。

○久保政策企画課長

そうしましたら、副議長はいかがいたしましょうか。

○藏本政策企画課担当係長

副議長は議長が欠席のときにかわりに進行をとるか、基本的には事務局がシナリオを用意しているので、代表的に何かをするという話までは重くはないんですけれども、副議長は議長がもしいなかったときだけかわりにという形になります。

○奥委員

どなたかお手伝いいただける方はいらっしゃいませんか。

○福岡委員

中井さん。

○中井委員

経験されている方のほうが、我々初めてなんで。

○福岡委員

私も前年度議長させてもらっていたから、ちょっと発言したいんです。

○中井委員

副だったら、これでいったらいけるんじゃないですか。

○福岡委員

私、1年目で何もわからずに今までやっていましたから、1年目でもできると思いますから。

○藏本政策企画課担当係長

役に限らず発言は皆さんから。御経験という話であれば、横山さんを元議長経験者ですし、2期前の委員でしたが。

○光在委員

じゃあ、横山さん。お願いします。

○久保政策企画課長

それでは、議長は奥委員ということで、副議長は横山委員ということで、よろしくお願いします。

通常でしたら、議長、副議長席を設けてあるんですけども、資料の移動等になりますので、本日は席札だけ置かせていただきまして、次回から議長、副議長という形の配席にさせていただきたいと考えていますので、御容赦いただけますでしょうか。

○奥委員

僭越ながら、よろしくお願ひいたします。

○横山委員

よろしくお願いします。

○久保政策企画課長

それでは、以後につきましては、議長、副議長に会議を進行していただきたいと存じますので、奥議長よろしくお願ひいたします。

○奥議長

それでは、型どおりに進めさせていただきまして、次第に則して、議題（1）の令和2年度淀川区運営方針概要版（案）について進めてまいります。

では、区役所のほうから説明をお願いいたします。

○藏本政策企画課担当係長

ここからパワーポイントを使って説明させていただきます。

今から、来年度の淀川区の運営方針の話をさせていただくんですが、運営方針については、もともと淀川区の5年間の計画で将来的ビジョンというのがありまして、こ

れに基づいて単年ごとの計画を定めていっているものになります。運営方針と将来ビジョンについては、先ほど申したように、2018年から5年間定めている将来ビジョンというのがありまして、この間の区政会議で今の委員構成になったときに、皆さんに改めてお配りさせていただいたんですけれども、5年間の中期計画に基づいて、毎年つくっているものになります。今から御意見をいただきたいところは、令和元年度の運営方針を、前回の全体会議で振り返って、こんな形でしたということで皆さんに御報告させていただいて、それをもとに予算とか、大阪市の全市的な方針等を踏まえて、大まかな来年度の運営方針のたたき台みたいなものを区役所でつくりました。それを運営方針の素案として11月に公表しています。公表後に、それでまだ検討段階で、この素案の後に案というのをつくって、最後4月末までに確定させていくんですけれども、今は案の公表前の段階になっておりまして、大まかなフレームの素案としてつくった、この運営方針について、これから2月に向けて案を公表していきますので、皆さんに案をつくる前に、それぞれ区として悩んでいるところとかを御意見いただいて、案を固めていく、また、事前に運営方針についても配らせていただいているので、事前に見ていただいた中で、ここをちょっとこうしたらどうなのみたいなのがあれば、御意見いただければと思います。という形で、PDCAを回していくというのが運営方針の基本的な考え方なんですけれども、当年度の運営方針の振り返りしながら、課題を抽出していきながら、来年度の運営方針をつくっていった、またそれに沿って、来年度実行しながら、その次の年をつくっていくというものになります。役所の性質上、次年度の予算というのは非常に早目にかたまってしまうので、9月とか10月ぐらいで、予算自体はほとんど動かさないんですけれども、その予算を使ってどのような取り組みをしていくかというのは随時、年度が始まってからでも変更できるので、できるだけ皆さんの御意見をいただきながら、よりよい形を目指していきたいと思っております。

来年度の運営方針になるんですけれども、この淀川の河川敷が表紙になっている事

前に配らせてもらった資料1に（案）調整中と書いてありますが、2月になるとこれは調整中というのを外して、皆さんにいただいた意見をできるだけ反映させて、案を公表していきます。昨年度と大きく変わったところでいうと、それぞれ淀川区の運営方針は柱4本でできていまして、安全・安心と、教育・子育て、つながるまちの実現ということでコミュニティづくり、区役所づくりということで区役所の運営に関するところで、4本柱でできているんですけども、大きく変わったところでいうと、今回のこの部会には直接関係はしないんですけども、教育・子育て支援の充実のところの子育て支援のところは、重大な児童虐待ゼロに向けた子育て支援ということで、中身が例年と比べてがらっと変わっております。これについては、大阪市の全市的な方針で、近年児童虐待が問題になっているところから、来年度については各区、特別予算をつけて児童虐待ゼロに向けた子育て支援に力を入れていこうという大きな方針がたっていますので、淀川区の運営方針についても、ここが大きく変わっているところになります。あと、変わっているところでいうと、一番最後のところで、SDGsとの関連についてというページができています。これは本日お配りしたSDGsの資料も参考資料で配らせていただいていますけれども、国連サミットで採択された持続可能な開発のための2030アジェンダというものに記載されている、世界各国でここは力を入れていこうという17のゴールというのがあるんです。それに沿って区の運営方針はどういうところに関連しているのかというのを整理したものになります。ここは目標が世界的な目標なので、行政区レベルで直結するというのはなかなか難しいですけれども、意識として全世界共通に取り組む目標も意識しながら、できるだけやっていく形で各区、運営方針についてはこういう形で整理して、表示していく方針になっておりますので、このページができております。大きな変更点については以上です。それではお手元の資料1を見ながら、各担当課から説明させていただきます。

では、市民協働課のほうから順番に説明させていただきます。

○畑中市民協働課長

私のほうから簡単な説明になるんですけども、17ページのほうですね。この運営方針の概要の17ページになります。こちらのほうで、経営課題3、つながるまちの実現ということで、一応項目立てとしては、3点ほど上がっているということになります。先ほども説明にありましたように、継続的に取り扱う中身と、令和2年度で重点的にやるものということでの表記にさせてもらってまして、18ページ、3-1-1、市民活動の理解促進ということで、こちらについての今年度の重点的取組としては、淀川区転入・転出が非常に多いという形になっておる中で、その辺で地域のことを御理解いただけるような方法はないかということで、転入者向けの小冊子の作成を18地域にちょっとお願いしてみようかなということを考えているところでございます。1つ目の取組みとして、市民活動の理解促進という形で、今は現実的に転入者とかが来られたときには、転入者パックという冊子をお渡ししているんですけども、その中に紙1枚しかつけていない形になっているんですけども、それよりももっと、各地域がつくっていただいている、うちのところはこうやぞみたいな形のを、区役所と一緒に各地域つくっていけないかなということ、令和2年度、取り組んでいきたいなというふうに考えているところでございます。

続きまして、下の19ページになります。地域実情に応じたきめ細やかな支援ということで、こちらにつきましては、重点的取組としまして、若い世代の情報発信ということで、SNSを活用した取組みという形になります。これについては、令和元年度の1回目の区民アンケートのほうで、若い方がSNSを使っているという割合が高いということで、こちらのほうのアンケートの結果から、今回こういう形で重点的取組として、SNSでの発信という形を取るように入れさせてもらっております。

最後3つ目なんですけれども、具体的取組3-2-1、さまざまな活動団体の連携・協働、21ページになります。こちらにつきましては、いわゆる各地域には中間支援組織（まちづくりセンター等）が入っていただいて連携している部分はあるんですけども、地域活動協議会で、NPO及び企業が連携した取組みについて、今現

在情報の共有というのがなかなかできていないというところがある中で、そういうのを各地域にはこういう取り組みをしているという形をホームページのほうに掲載するというをやっていきたいと思っております。こちらについては、事務的な話で、中間支援組織の評価という形の事務があります。そちらの委員さんからもそういう形を取らないのかと御意見があったということだったので、その辺をちょっと取らせてもらっているというところがございます。

私からは3点、以上です。

○久保政策企画課長

続きまして、22ページ以降、経営課題4、区民のための区役所づくりにつきまして、説明させていただきます。

具体的取組4-1-1、広聴機能の充実、23ページでございます。広聴につきましては、区民の方々が何を行政に求めているか等も含めまして、区民アンケートを年に2回実施しているところですが、今年度も若年者層、18歳から29歳と年齢を限定した形のアンケートを実施してきましたところですが、その中でも、想定以上の災害対策については若い方々も意識は非常に高いということがわかりました。令和2年度においても、もう1回区民アンケートを実施する予定ですが、区の課題に合わせた形で、対象を絞った形のアンケートを実施していくと、令和2年度についても、1回は限定した形というのを考えております。その中でも、若年者のアンケートがかなり全世帯のアンケートより回答率が非常に低かったと、若い人たちの行政への回答なり、リアクションが少なかったということもありますので、それについてはほかの区がどうしているのかとか、他都市がどういうことをしているのか、例えば簡単にボールペンを入れて、これで書いてくださいというような工夫をしている区もありますので、そういったことも含めて、いかにしたら回答率が上げられるかということを考えております。

続きまして、24ページ、具体的取組4-1-2、まさに今のこの会議、区政会議

の効果的な運営について、運営方針で掲げています。区政会議につきましては、本当に毎回皆様からのアンケートなりをいただいて、できる限り、ただ夜間の忙しいところにわざわざ集まっていただくということもあるので、やはり来てよかった、話をしてよかったというふうな形で皆さんにいただきたいと思いますので、そのためにできるだけしゃべりやすい雰囲気とか、全体会議でもちょっと部会のような形で、フリートークのような形を設けたりという形で、いろいろな形で工夫を重ねてきているんですけども、より皆様が参加してよかったと思えるような形を、今後とも工夫を重ねていきたいと考えておりますので、引き続き忌憚のない御意見を頂戴できるような形を、工夫を重ねていきたいと考えております。

続きまして、26ページ、具体的取組4-2-1、区民が必要とする情報の発信ということで、これについては後ほど委員の皆様伺いたい御意見の1つという形で上げておりますけれども、一番淀川区役所のほうで重視しているのは、よどマガなんですけれども、よどマガのいわゆる紙による媒体にかかわらず、いろいろな形でホームページもしかり、SNS、TwitterであるとかFacebookでも取り組んでおります。おかげさまで非常にほかの24区に比べると、Twitterも24区中1位とか、Facebookも非常に他区に比べると頑張っているんですけども、ただそれでも不十分なところもあると、それと、先ほどの若年者のアンケートでもそうだったんですけども、SNS自身はたくさんの方が利用しているんですけども、区役所が発信するSNSについては、これだけ他区に比べてまだましですけども、まだまだ不十分なところもあるということで、そこについてはもっと、フォロワー数という形の数字が出るんですけども、重点的に取り組んでいきたいと考えております。さらに、先ほど言ったよどマガにつきましても、試みとして区民の方々、地域活動をする方が参加できるような、いわゆる双方向性のある、区役所から一方的な形ではなくて区民参加型、いろいろなサークル活動をPRするためによどマガを使ってもらおうというようなことも考えておりますので、引き続きより充実した広報誌を目指していきたいと

考えております。

以上でございます。

○西総務課長

引き続きまして、経営課題4について御説明申し上げます。

資料で言いますと、27ページから28ページにかけてごらんいただきますでしょうか。具体的取組4-3-1、窓口サービスの向上でございますが、大阪市内で区役所来庁者などに対するサービスの格付という、これは24区役所一斉に行っている取り組みがあるんですけども、要は区役所の窓口の接遇のレベルがどんなものであるかというのを、接遇などを手がけている事業者が覆面調査のような形式をとりまして、電話対応であるとか、窓口対応を採点するといった取り組みをしております。淀川区役所は長いこと星1つ、ちなみにランクとしては星なしから星1つ、星2つ、星3つに分かれておりまして、星1つで民間窓口サービスの平均的なレベル、星2つで民間の窓口サービスの平均的なレベルを上回るレベル、3つ星になりますと全国に誇れる極めて高度なレベルというような位置づけになっております。事業者の採点が3.5以上ありますと、星2つということになります。淀川区役所の場合、長いこと星1の状態が続いておったんですけども、平成29年度は星2つを獲得いたしました。ところが、平成30年度、はこの採点が3.5を下回って3.4ということで、わずか0.1ポイント足らなかったんですけども、また星1つに戻ってしまったと、非常に残念な結果になっておりますので、再びこの格付、星2つを目指すべく、今接遇の向上に努めておるところでございます。これから特に、区役所の接遇もさることながら、レイアウト、プライバシーとバリアフリーに配慮したような、そのような区役所のつくりなどもこの採点の一つの項目になってまいりますので、今後そういったことも重点的取組に置きながら、職員の接遇向上を目指していきます。今年度も覆面調査が終わったという情報は聞いております。もう採点は終わっているのかもしれませんが、何とか星2つ、今年度獲得できればいいかなと思っております。また、来

年度以降も星2つ以上、さらには高みを目指して星3つを目指して職員の接遇向上、
不断の取り組みを続けていきたいと考えておるところでございます。それが、4-3
-1でございます。

続きまして、29ページから30ページにかけてごらんいただきたいと思います。
効率的な区行政運営ということで、具体的取組4-4-1でございます。ここで紹介
させていただいておりますのは、不適切事務の撲滅ということでございます。区役所
はさまざまな事務を実施しておりますけれども、個人情報が入りこみであったりとか、
あるいは区民の方々へお支払いするお金の計算を間違ったりだとか、そういった不適
切事務が絶対にあってはならないことなんですけれども、何件か起こっております、
当淀川区役所でも昨年平成30年度で、年間12件、そのような案件が発生いたしま
した。また、今年度もこの12月までに9件発生しておるところでございます。何と
かこれをこれ以上ふやさないで食い止めるとともに、来年度は限りなくゼロを目指し
て取り組んでいきたいと考えております。この具体的な取り組みといたしまして、こ
のような不適切な事務が起こるとするのは、お互い自由に意見が言えないような、風
通しの悪い職場であれば、なかなかそういった業務改善も進まないであろうと考えま
して、とりわけ職員同士が自由にものを言い合える、風通しのいい職場を目指してい
くための取り組みに力を入れていながら、この不適切事務の減少、撲滅に向けた取
組みをさらに強化してまいりたいと考えておるところでございます。

非常に簡単ではございますが、私からの説明は以上でございます。

○久保政策企画課長

区役所からの運営方針概要に関する説明は以上になります。

奥議長、よろしくお願いたします。

○奥議長

ここで御質問等ございませんでしょうかということなのですが、今の説明に対して。
確かに議長になったら、質問できへんわ。何かありましたら、後で本当に時間とって

いただいたほうがいいかと思えますよね。

では、次の議題に移らせていただきます。

では、議題2、地域コミュニティの活性化について、区役所から説明を簡潔にお願いいたします。

○山崎市民協働課長代理

市民協働課長代理の山崎と申します。

資料2、令和元年度第2回コミュニティ力向上部会において伺いたい内容の上段について説明をさせていただきます。

先ほど、お話をさせていただいておりますように、令和元年度8月の終わりか9月の中旬ぐらいにかけて、18歳から29歳という若年層を対象とした区民アンケートというのを初めて実施しました。そこで、何を聞いたものかなど、いろいろ区役所内でも考えたんですけども、やはり町会加入についてお伺いしたいという思いがありまして、「あなたは町会に加入していますか」という質問を投げかけました。その結果、この上の円グラフにありますように、「加入していない」「わからない」という回答が全体の4分の3、さらに「加入していない」といううちの半数の方、問8のところ「加入していないと回答された方にお伺いします。加入していない理由を教えてください」というところで、約半数の方が「町会の存在を知らないから加入していない」という結果になりました。この結果を受けまして、今後の地域コミュニティの活性化に向けて地域活動の中心的な役割を担っておられる町会の認知度を高めることが重要な課題であると考えました。そのために活動を知ってもらうことを目的としました、情報発信力の強化が必要であると考えているところです。区役所としましては、令和2年度主な取り組みとして2つのことを考えておりますけれども、まず取組案1が、先ほど申し上げましたように、転入者向けの地域紹介小冊子を18地域それぞれに作成していただいております。本日もお手元のほうに、くらしの便利帳という結構分厚いのをお配りしていると思うんです。それはずっと淀

川区内に住んでいると、新しくなったと御存じないと思うんですよね。これは全区民に配っているのではなくて、転入されてきた方にだけお配りしているので、皆さん丸ごと冊子としてごらんになられたことはないのかもしれないなということで、本日資料としてお配りさせてもらっているんですけども、これは24区の間い合わせ先はここだよという、後ろのほうは大体同じようなことを書いているんですけども、淀川区版ということで、淀川区の方に向けたメッセージコーナーというのがありまして、それが8ページから淀川区の防災の地図であったり、いろいろな施設マップ、あとは淀川区へようこそみたいなことで、淀川区ってこんなところなんですという紹介している中で、いろいろ淀川区のイベントガイドが12ページ、13ページに載せさせてもらったり、あと、1月号の区民だよりも、よどマガにも載せているんですけども、引っ越してこられた方がいきなり「あなた加島地域ですよ」「木川南地域ですよ」といってもわからないと思いますので、住所順にあなたの地域というのはこういうところですよ、もし町会に入りたいなということであれば、地域の会館のほうにお電話くださいという紹介ページをつくらせてもらっているんです。これを、転入者の方というは転入の窓口でもらってはるんですね。やはりそれだけだと、わざわざめくってみて自分はこんなところにと、18分の1のことというのはなかなか見ないんじゃないかなということで、それぞれの地域で小冊子をつくっていただいて、転入手続の窓口等で置かせてもらったらいいんじゃないかなということ、今考えているところです。

もう1つは、取組案2のほうなんですけれども、これもアンケートの結果で、若い方がいろいろ教えてくださっているように、結構よどマガも見はりますし、町会の掲示板とか、マンションの掲示板とかも見はるんですけども、若い方たち、夜中でもちょっと調べたいなと思ったらスマホで調べはりますね。いろいろキーワードをぽんと入れていって、例えば西中島盆踊りみたいにして、ぽんぽんと調べて、そこで出てきた情報を自分のものにしはるということなので、区内18地域でFacebookとか

Twitterとか、そうやって夜中でも気軽にいつでも誰でも入手できるような情報発信体制をできるように、区で支援したらいいんじゃないかなという、この2点を今考えているんですけども、もっとこんなことをしたらいいんじゃないかなとか、若い人はこういうのをよく見はるよみたいなことがあれば、お聞かせいただきたいと思います。

私からは以上です。

○奥議長

では、今説明のあったところに関して、御意見、質問等あったらお出ししていただきたいんですが、いかがですか。

○中井委員

ちょっとすみません、よろしいですか。

先ほどのくらしの便利帳を説明していただきまして、若い方のアンケートと、私も勉強不足なんですけれども、ただ現実にも私も何年も前からマンションなどの建設時にかかわった中で、町会に入っていていただく若い人、お年寄りも皆おられるんですけども、当然そういう方に入っていていただくという形で、建設時に掲示板とか、いろいろなことをお願いしているんですよ。ところが、これはよその町会でもあったんですけども、現実にもマンションの中で掲示板をつくっていただくとか、そういうところがすごく今少なくなっている、はっきり言いまして。ですから、町会の役員はジレンマを抱えています。こういうSNSとかスマホ、あるいはこういうくらしの便利帳を見られる方はまだいいんですけども、やはり多くの方は、こういう少子化の中で若い人にできるだけそういうものを浸透させるということを含めて考えますと、何かその辺のところでは手を打てないのかなと、私も2回ほどマンションのやったんですけども、町会費はいただいているんですけども、いろいろな情報を伝達して、なおかつ見ていただくという作業が、この中の今回の資料にも出ていましたが、きめ細かいコミュニティづくり、それと、今の大阪市がやっている広域行政の中で、どう

マッチさせていくという、町会の役員というのは今ジレンマを抱えている、はっきり言いまして。70歳後半になってきますと、皆さんもう動きも悪くなる、今言われたような、こういうくらしの便利帳を見ていただく方はまた、よどマガなんかでも、私、ちょっと会議に出たんですけれども、区役所の方がいろいろやっけていただいている中で、活動をこれで見られている方は結構おられるみたいです。ガレージセールなんかでも、これを見て参加したとか、ですから、その辺のところは逆に私どもも、そういうマンション建設時にいろいろかかわって何年もかけて町会費をいただいて、なおかつ参加していただくという活動をやっていても、なかなかそこまで浸透していかないというか、大きなジレンマを抱えています。はっきり言って私だけじゃなくて、よその町会の方も一生懸命やっておられる方は多分ジレンマを抱えておられる。もしその辺のところ、ビジョンも含めて御回答があれば教えていただきたいなと思って。

○奥議長

どうですか。同じように特に町会の加入率でいえば、具体的にどれぐらいなんですか。

○山崎市民協働課長代理

24区も結構ばらつきがあるんですけれども、やはり相当低下していて、約半分、150、160ぐらい。

○奥議長

半分あるんですかね。

○山崎市民協働課長代理

一応回答上では半分はあるんですけれども、厳密に分母を何においてというところも、世帯の考え方。

○奥議長

区としてどうなのかということで、区全体ですると半分はない。

○山崎市民協働課長代理

区全体でいうと、一応これは公表されている数字なんですけれども、52.3%。

○奥議長

どうですか。

○福岡委員

そんなものだと思います。要するに、紙の媒体は一覧ができるんですが、自分が何を見たいか、自分は何を探しているかということを探すのには紙の媒体がいいと思うんですよ。自分はこれを見たいんだということのをこれで決めることによって、探すのはSNSがいいと思うんですよね。要するに何を自分は知りたいのかということが決まったら、検索するのはSNSと、自分は何を知りたいのかわからんけれども、淀川区のどんなことをやっているのかなというふうなことを見るのには紙の媒体がいいと思うんですよ。だから、これは両方必要だと私は思うんですよ。

○中井委員

そうですね。おっしゃる通りだと思います。それと今、さっきも御報告されたように、若い方はハザードマップというか、今回も昨年新しいハザードマップ、水害とかいろいろな状況がだんだん変わってきていますので、そういう興味を持たれている方は自分に直接被害が及ぶものだから、ハザードマップなどは欲しいなという方は多分おられると思います。私も部数が少ないから何十軒しか配れなかったですけどもね。しかるべき役員の方に皆一応お配りして、淀川区はこういう状況ですと、それで、去年、一昨年などは、区長が言われたように、神崎川とか淀川の向こうの大阪湾近くの塚本のほうは、かなり危険な状況であったということを感じていますので、そういうことを常々心がけるといって、いろいろな情報で発信するというのは大事な、それはコストもかかりますので、正直コストをかけずにやりたいなという、当然これは今の大阪市の行政の中の予算でも言われたんですけども、会社でも一緒に、もう12月・1月・2月になったら、皆来年度の予算を組みますので、その辺のところなど、はっきりした明確な回答があったら教えていただきたいなと思うんです。

○奥議長

何か、御意見ありませんか。

○光在委員

先ほどから取組案の1、この転入者向けの地域紹介冊子、これなんかはすごくいいなと思うんです。個人的にですけれども、私などはSNS、パソコン触ったり、そんなものを使いこなせませんので、携帯でもメール、電話、写真、LINE、そんな程度で、パソコンでもメールで写真とかそういうものを送っていただくだけで、FacebookとかTwitterとか、そんなのはしたことがないですし、余り興味もないんですけれども、今の若い方はそういうのをスムーズになさっているし、情報を得るのはそんなので情報を得て、比較的それで終わっているんじゃないかなと思うんですよ。知りたいなと思ってパソコンとか携帯で情報を得て、それで次どうしたらいいかなと思っても別にその方法がない、わからないから情報として自分で得て、それで終わっているという人が結構いると思うんです。個人的な意見なんですけれども、今の取組の1、私も町会でお世話しています。うちの町会では、転入者が入ってこられたら、まず町会長なりが自筆で当町会ではこれこれこういう、例えば町会費は幾らで、こういう行事をして、こういうことをしているという文書を郵便受けに入れるんです。1カ月かそこから様子を見て、何人かで出向くんです。それで、一応いろいろな書類をもって説明をして、子どもさんがいいたら子ども会もありますし、こんなこともしていますよというので、お誘いする。そうすると、大概は町会に入ってくれます。だから、そういうことをしないでほっておくと、越してきて、あそこに越してきたけれども、誰かなという感じですから、そういうふうになっているので、今この取組1の地域紹介小冊子、これはすごくありがたいなと思って見ているんです。淀川区全域の地域を紹介したって、町会に住んでいて余り興味ないんです。自分ところの町会を、例えば最初加島ですから、加島地域のいろいろなことを紹介した冊子、その最後に自分の住んでいる当該の町会、その町のいろいろな特色とか行事内容とか、そういうのを書き込める

ように、余白を残していただいでいて、役員なりが書いて、それを手渡す、手渡して顔を見て話しをして、町会に入ってもらおうと、そういうふうにできたらいいなと思って、今この取組1はありがたいなと私は思っております。

○中井委員

マンションも一戸建ても同じような感じです。

○横山副議長

多分これは若年層向けのアンケートで、18歳から29歳までで、一番この層には近いと思うんですよね。この結果は当然というか、それはそやなという話で、多分この辺の世代も私らを含めて、町会というのが何のために入らなあかんのか、全くわからないんですね。今の話で、お金は払わなあかん、地域参画して苦勞はせなあかんマイナス要素しか見つからないんですよ。だから、もちろん興味もなければ入りたくない、どちらかというとなガティブな意見も多くて、なぜ以前の震災とか地震があったときに、こういうときにこんなことが情報として提供されたり、入っていないとこういうデメリットがあるという具体的なことを示してあげないと、多分彼らは興味を示さないんですよね。全くメリットがない。デメリットのほうしか出てこないんですよ。そのメリットをしっかりと伝えてあげることで、伝え方も多分以前の町会がそれなりに加入率が高かったのは1軒1軒、それこそ熱心に情熱をもって伝えていったと思うんですよね。それが今の若い世代には、晚もいてないし、なかなか会えないというのがまず一つですね。会えない人たちにはどうアクションをもって接するかというところをまず考えないといけない、本当やったら対面でその辺のことを働きかければいいんですけれども、なかなか難しいとなると、こういう紙ものかSNSとかを使って、その辺のことをいかにどう表現してあげるか、多分今やった動画でしょうね。

動画を使ってそういうことをまとめて、Youtubeなりに上げて、とにかくこれ吹き込む、吹き込み方もいろいろ問題ありますけど、多分、そういうことをやっていかないと彼らの関心は引けないので、多分、町会の加入率も上がらないということにはな

ると思います。

○藏本政策企画課担当係長

これは、1も2も地域につくってもらいたいイメージなんですね。

○山崎市民協働課長代理

そうですね。

○奥議長

まちセンさんと動くって話にはなってるんですね。

○山崎市民協働課長代理

はい。

○奥議長

まちセンが各地活協回って、つくりましょう、つくりましょうってアプローチをするって話になってるんですね。

○山崎市民協働課長代理

はい。それで今ちょうど、まちセンの公募の条件、仕様書の中にこういうことを地域の方がなされる支援をしてくださいっていう条件で公募してる状態。

○奥議長

そういうことになるんですね。

○横山副議長

各地域の魅力はそれでいいと思うんですけど、そもそもの町会って何やってというのは、区全体でつukらないと興味が湧かない。

○奥議長

私ごとですみません。私も、そもそもの話からすると、町会っていったらPTAもそうなんですけれども、わざわざ会費まで払って、班長が義務で誰がするねんていう話でしかないんですよ。

ですから、そもそも区役所のほうから地域に情報発信するチャンネルを町会経由に

してることも自体でもう既におかしいと思うんです。彼らの意見からすると、住民税払ってるねんから当然情報受ける権利はあるよって言うんですよ。町会費払って町会員に入って班長回るといふ、そこを受けないと情報入らへんといふのはおかしいといふふうに具体的に言われます。

僕らも、子育てサロン運営してたんですけども、実際に町会、地活協のチャンネルからだ減っていくけども、メールでばんと出したら、やっぱり増えるんです。なので、やはり情報欲しいという人は実際たくさんいてはります。

そもそも町会に加入させるべきなのか、区役所としての情報発信の方法は、町会というものを主に置くのか、当てにしないのかといったら、どっちをお考えなんでしょうね。

○光在委員

区役所からのいろんなの来るでしょ。でも町会、振興町会、町会なくして絶対できないと思うんですよ。

社協の行事にしたって、何の連絡にしたって、今の状態で町会なくしてできないと思いますよ。

○中井委員

それが、同じ意見なんですけど、若い方は、今ちらっと言われたけど、町会に入らなくても大阪市さんは、やられてる公的な行事は公平に受けられて、別に町会費払ってまで受ける必要があるのという考え方が、お年寄りの中には何かちょっと一部の方ですけど、我々そうじゃないんだけど、その辺の考え方がちょっと違う、ずれが生じてるのかなという気はします。

○福岡委員

役所としては、多分、つくられた資料は全部に配ってる、町会に入ろうが入るまいが。そうになっているというのが役所の考え方やと思うんです。

○中井委員

そうです。そうなんです公平に、おっしゃるとおり。

○福岡委員

だから地活協の資料は本当は全部配らなあかんのです。

ところが、今現在は、その資料を配るのは町会に頼ってますので、結局町会に頼ってるから町会。町会の組織というのは、町会長がいて班長さんがいて、班長さんが配ってるわけなんでね。そうなりますと、どうしてもそんな範囲になっちゃうんですよ。

前に防災の冊子をつくったときに、町会ごとに作りましたですよ。あれは全部に配ってくれ言うから、結局あと班長さんがいないところは全部、言うたら私町会長がみんな入れていったんです。そういう形でないと配れないんです。町会長はそこまで毎回やれるかいうたらようやらんわけです。ほんなら結局、今やっぱり班長さんに頼りますから、いるところは町会に入っている人だけやいう形になってるのが現状なんですよね。

○奥議長

ですが、そもそも、それだとただ52%に向けてしか発信してないわけですよ。そもそもが、ですよ。結局それしか手段がないということで52%にしか発信してないのに、行ってないって言うてはるんであれば、そもそもそこがおかしいん違うんかなってことなんです。

○福岡委員

その52%に出してても、捨ててる人が多くいてるんです。

○奥議長

もちろんね。

○福岡委員

だから、それをいかに見てもらえるようにするかなんです。

○奥議長

ですから、よどマガなんかであれば、町会員じゃなくっても請け負ってポスティン

グとして全戸にまいてはるわけですけれども、回覧板というたら町会員でしか見れないわけなんですよね、結局は。だから、僕らでも実際にいろんなイベントがあるんですって言うても知らない。町会に入ってなかったらわからへんと言わはるわけです。

ですから、町会にじゃあ何で入らないの、それはメリットですよって言うても、入れさしてもらわれへんていう人も現実にはありましたよ。班をつくらないと入れないとか、マンションに入ってしまってるからマンションの理事会の中で町会は拒否してるので、町会費払わないっていうことで、あくまで町会費を抑えて募集してるので、自治会とかそういうところ辺で町会には非加入ってなってるわけですから、そうなる、今度は町会長さんのほうは町会長さんで、何で非町会のところまでせなあかんねんて、これまた正しい理屈なんですけれども、そういう非町会員には行かないというネットワークでありながら、たくさん知らせようというんだったらちょっと矛盾してると思うんです。

○福岡委員

実際、例えば、盆踊りなんかのときは、町会以外の人がいっぱい来てるんです。

○福岡委員

そういうことはね、自分が興味がある場合は自分から情報を得て行くんです。

だから、町会が困ろうが何しようが自分がこれやと思うたら、情報をどっかから得て、例えば、掲示板とかありますやんか、張ってますやんか、そんなんを見てでも行ってるわけなんです。

だから、町会が配らなあかんとばかりは言えないと思うんです。自分からやっぱり情報を取らずような何か仕掛けをつくらなあかんと思うんです。町会に入っていないと情報が取れないんじゃないくて、町会の情報じゃなしに自分から取りに行くような仕掛けをつくらないとあかんと思うんです。その興味を起こさな探さないんですよ。

○奥議長

それが、今回言われてる、まちセンを通じて、小冊子であり、町会の加入条件じゃ

なくて、住民登録しに来はった人にはあまねく渡しましょうよっていう話で、それが今、横山さんおっしゃったみたいに、町会加入することのメリットというのをしっかり伝われば、自分から入れてくださいっていう動機にもなるのかなというふうに、そこで、そこで町会の加入率が上がるんならわかるんですけど、今の町会の加入率を前提に置きながら、町会でしか伝わらへんてなってくるとちょっとそこはおかしいんじゃないですかねと思うんです。

○福岡委員

その町会の役目が、情報伝達ばかりじゃないと、

やっぱり顔見知りになるというのが一つの要素、ですから町会の行事、例えば、旅行に行ったりなんかするとかいう行事でもって顔見知りになるとか会うということ、そやから情報の発信ばかりが町会のあり方ではない。

今の情報発信は、例えば、今言うように、もっと違うところからみんな見てるんです。特に若い人たちは。そやないとあんな盆踊り、こんなに来るかいうて思うほど来るんです、実は。

○横山副議長

だから、こういうアンケートとって若年層に町会に入ってもらうことを目的にするんかどうかっていうこともあるんです。

○山崎市民協働課長代理

目的は、もちろん町会加入率を上げることは別段目的ではない、手段であって。

○福岡委員

本当は、私ら町会長としては町会費欲しいからね、それでないと行事ができないからね、やりたい行事は。できるだけ入ってほしいんですよ。できるだけ入ってほしいんだけど、情報発信だけのことを考えるんやったら町会ばかり考えてるのはあかんということです。

○奥議長

だからSNSとかで非町会員であっても届くって言うものが、やっぱり一番正しい。それを、動機にして町会加入にするというのが本来の道なのかなとは思いますが。

○横山副議長

新しい世代とすると、今おっしゃった町会運営するためにお金が必要、そのために町会員を募集して町会費集めるということであれば、多分、若い子の感覚でいうと、クラウドファンディングでええやないかっていう感じになってくるんです。目的があつて、そこに盆踊りやりたい、地活協でやりたい、参加したい人はそこに寄附してくれって言うことでまた資金集めできるんです。だから、多分、町会そのもののお金の集め方とかがそろそろ過渡期に来るんじゃないかなというのが、ちょっと40代なんですけど若手の言葉を代弁すると。

○光在委員

何か、町会に入って何のメリットがあんねんって言われたら、もうお手上げです。

○横山副議長

これは、世代の問題で。

○光在委員

思います。世代の問題やと思います。

○横山副議長

そうなんですよ。だから、そこをちょっと理解はしてあげないと多分この議論は進まないんです。

○福岡委員

町会のことに関してやったら、多分私とこの西中島の場合は、一部はちゃんと戸建てがありますけどほとんどマンションですから、マンションが全体としてオーナーなり管理組合なりが出してくれてますので、中に入ってる人は自分が町会員であるかどうかもわかってないです。実のところ。せやから、それに一人あなた町会に入ってくださいと一人ずつに言ったって、全然何にもないことなんです。

○中井委員

それと、もう一つは、やはり淀川区の場合、私はこの地域しかあんまり見てないんで、よその地域はわかりませんが、ファミリータイプよりここ数年の間、これは大阪市の状況からワンルームマンション的なものが物すごく増えてるんです。そうすると、我々の活動範囲が物すごく狭まってくるんです。ですから町会費、極端なことで300円とかいろいろ各自決めてはあったん、現実にマンション建つと建設時に当然建設会社そういうものを拒否してきて、百何件あったら100円にせえとか、この前テレビに出てた会社なんか、かなり言い合いしたんですけど、現実にだからそういうものがじわじわと、やはりこの十数年の間にコミュニティが若干崩れてきたというようなこともあり得ると思います。

だから、今言われたように、個別で若い方も面接というか話をすると理解していただいてる方とかやっぱり結構多いんです。だから、ただやはり今言われたように、お金まで出して何でそんな何してんのというようなことも、私どもは資料も年間の行事とか、それとマンションでも大阪、区役所なんかでもされてる行政行事、振興町会なんかしてもね、年間の月の行政行事ありますわな毎月、そういうものを一応町会費が入っておられない方でも一応マンションなんかは渡してるんですけど、私もずっとやってるときには町会費関係なしに、やはり餅つき大会でも子どもさん来られて親来られたら、町会費入ってる方だけしか食べられませんよとかこんなばかなことできません、はっきり言って。だから、それはある程度公平にやっぱりやっていく、ただその中には、裏側にコストがかかっているということは紛れもない事実なんです。

町会費はもうここ五、六年、10年ぐらい私もずっと数字見てますけど、やっぱり年々三千何件がトータルで2,000、3,000ちょっと切れましたね。もう数百件減ってます現実。だからそういう推移を見てると、今言われた、50%というのは、まあちょっと怖いのは、これからの時代に向けて、この書かれてるいろんな計画の中で、本当に我々年寄り高齢化社会と少子化でそういう活動が本当にどうやって進むん

かな進めていけるのかなっていうのが、広域行政ときめ細かいやはりそういうきずなを築いていく中で、双方のジレンマをどうされるのかなという、私もこれ資料目が悪い中でばばっとちょっと読んでみたんですけども、だから、その相互性というか2つ相反したものをどうこれからマッチさせていくのかなというのが、あんまり若い人に言うと、おまえもう年いってるから関係ないやろ言われたらそれまでなんで、そこで口をつぐむしかないのかなという気はするんですけど。

○奥議長

今回、アンケートとられたのが18から29歳対象とされたと思うので、若年層に対してっていう形のものが前提にあったと思うので、だから年長者の方って結構町会の価値というのは認めてらっしゃると思うんです。ただ若い人たちというのは本当に価値というのは見えてないっていうのが現実かと。ですから、本当に子育てサロンっていうのに入りませんかと言ってQRコードで無料で入れますよと情報発信したら、そやねん子ども育てるの怖いねんって言って来はって、町会入ってますって尋ねたら、何それって、町会入ってない、入ってたらいろんなことで情報入ってきますよって言ったら、ほんならぜひ入るわって、流れからするとまず情報を入れてあげて、そこで町会のメリットというのに触れさせてあげてっていう順番なので、町会の加入率上げよう上げようと言うたら、一番最初に情報発信から入らないと始まらないような気はします、そこは。そこは僕らも子育てサロンっていうチャンネルが若い人たちがほとんどスマホ、99%スマホでぽっと入りますから、そこでちゃんと受信しはります、サロンがあるないっていうことを。でもきっかけは掲示板見たから始まったと。

○山崎市民協働課長代理

結構、地域の掲示板とかマンションの掲示板見はるみたいだなっていうのが。

○奥議長

区役所の1階でも、すまいる・すてっぷさんとかに行って、サロンやってますよっていう案内してくれる。ほんなら行ったらええけど、私町会員じゃないんですって

う話はものすごい多いです。

うちも本当に今、P T Aの会長が非町会員が初めてなったんです。そういう時代です。だから、P T Aに何で加入せえへんかったんて言うたら、マンションに入ったから全然紹介されへんかった、理事会とかそういう世話人の方、あんなん入ったらあかん入ったらあかんって言わはったっていうところはずっときて、子どもが大きくなってきて何となく子どものことが心配でP T Aの会長というたら、地活協って何ですの話から始まって、もうそんな時代ですわ。

○福岡委員

地域の中で接触を求める方と、いやもうそなんうっとうしいという方と。

このアンケートにもありますよね、穴あるんですよ。ですけども、やっぱり地域の中に入りたくない人たちに対しては、この情報が伝わるようにしてあげないとあかんと思うんですね。それには、やっぱりここに書かれてるような対策いうんですかね、知らせてあげれるような、自分から求める情報を得れるような情報をこちらから発信ができる体制をとっておかないといかんのんじゃないかなと思うんです。

○横山副議長

せっかくこれアンケートとって、今見ると、いずれ引っ越しすることを考えているから、こういう人たちはしゃあないですよ。その他、御近所付き合いしたくないから、これもしゃあないじゃないですか。その他の理由は改善できそうですよね。そのために、この素案の冊子つくったりするのは非常にいいと思いますし、その内容も、このアンケートの回答になるべくものを盛り込んであげれば作る意味もね、ツールとしたら紙媒体とデジタル媒体、両方でこの回答として答えてあげれば少なくとも答えた人たちは興味を持つんじゃないですかね。そこからがスタートのような気がします。

○山崎市民協働課長代理

そうなんです、別に100パー伝えれるってもう無理なのもうわかってるので、アンケートの結果って一番最後のほうにずらずらあって、しかも問5のところでも

いろんな、地域活動に参加したいが参加したことはない、興味がない、参加したくないって方に聞くけど、何で参加したいけど参加したことないとか、したくないと思うのって聞いたら、地域でいつどのような活動があるか知らないからと言う方が結構多いんで、忙しくて時間の余裕がない方が一番多いんで、それはやっぱり働いてたり子育てしたり忙しいのはようようわかる、そやけど、いつどのような活動があるか知らないって方と、あと、転入してきたばかりなので地域活動のことがよくわからないというこの層、やっぱり、せっかく言うてくれたらやりますよっていう層を引きつきたいなと思ってるので、もう無理って思ってる方にまでどうですかって言う必要はないのかな。

○奥委員

淀川区っていう土地柄からすると、単身赴任とか短期だけっていうので地域に愛着のない方って結構いはるのは間違いないと思うので。

○福岡委員

要するに、今おっしゃったところをどないして知らせたらいいのかなというのが我々の悩みの種であって、これ今後の方針で挙げられてるようなことは非常に有意義なことやと、うまくいくんじゃないかなと思いますけど、うまくつくれば。

○奥議長

まちセンさんに頑張っていていただくというところで今回は。

○福岡委員

そやから、地域として、そういうつくれるいうか、それに携われる人材を確保できるかどうかなんです。というのは、新聞とかいうたら1回つくったらまあ言うたらずっと各自で置いとけるんだけど、Facebookとかあんなんは、しょっちゅう発信せなあきませんからね、そやけどそのFacebookとかそういうようなTwitterとかは、言うたらコストいりませんから、入れかえやすいから物すごい有用なんです。地域の行事なんていうのは、こういう形でやるかというおよその日にちが決まり何やしていくの

が3カ月ぐらい前なんですよね、実際の問題として。これどういうことやるんかないうことを決めるまでが時間かかりまして、本当に決まるのが1カ月ぐらい前になっちゃうんですよ。そうすると、紙でやるいうたらもうできないんです。ですから地域における新聞なんていうのは、こんなことやりました、餅つきしました、何々しました、後から見てもはっきりいっておもしろくないんですよ実際。ですから、こういうことをこれからやりますというのが、なかなか地域はよう発信してなかったんです。ですから、このFacebookとかそういうなんでやったらいけるから、ほんまいいことだと私は思います。そしたら、どっかの地域さんではFacebookなんかやっておられましたからね。木川さんってやってるって聞いてたんで、今日木川さんがおられないからわからないです。どっかやってますよね。

○山崎市民協働課長代理

そうですね、結構Facebookやってる、一応アカウントを持ってるけど、そう毎日毎日「明日は子育てサロンあるよ、明日はふれあい喫茶やるよ」というのは、どなたかわかりばんこで当番決めはるとか。

○横山副議長

ちょっと興味深いのが、地域活動に参加したことがある、問4で、小学校等で行われている盆踊りや夏祭りって書いてあるじゃないですか、圧倒的に多いんです。地域に参加するきっかけって、確かに盆踊り、さっきおっしゃったように一番わかりやすく、これをどうやって参加させるっていうので、ある意見を聞いたんは、大体、金券配るじゃないですか、来た人には金券ぐらいプレゼントしたらどうやと、それはもったいないという意見もあるんですけど、地域に参加させるそれぐらいの投資はいるし、これ200円か300円渡すから、ぜひ来てよというのを一軒一軒回ってふやしたっていう地域の話も聞いたことありますし、そういうのんで、一番上の入り口としたら盆踊りがわかりやすいような気がするんで。

○福岡委員

あのね、僕は盆踊りでも、来てもらうというのんでは何か弱いんですよ。それを、盆踊りをつくり上げる中に参画さすいうのんがやっぱり一番引き込みやすい。

○横山副議長

ハードル高いですよ、でも。まずやっぱ参加ですよ。

○山崎市民協働課長代理

まずは来てもらって、あら楽しそう、あれなら私も。

○福岡委員

結局、つくり上げるんですからみんなであって言うて、しんどい目で汗かくことによって喜びをして、町会へ入るかというようになるんです。来てもらうためではなかなかしんどいです。

○奥議長

ちょっと時間も押しますので、まちセンさん、一遍どう頑張らはるのか、ちょっと見て、それ以前にあったことを全部振り返っていただいて、皆さん御意見頂戴できればとは思ってるんですけども、最初のほうからいただいたところから、ずっと振り返って何か今日の中で、これはこうやああやというのはないですか。

次のところにちょっと進んでいただきたいので、資料のどこかっていうので、ちょっとまた御提示いただけますでしょうか。

○久保政策企画課長

資料2、今、資料2の上半分について議論していただいたかと思うんですけども、その下、区におけるSNSでの情報発信についてということで、実は、今、議論いただいてたこともかぶってくるんですけども、先ほども話ありましてように、よどマガであるとか、紙媒体、ホームページ、いろんな形でやってるんですけども、ただSNSの活用についても、ここに市政改革プランでもまとめられてるというふうにかかしてあります。しかし、区民アンケートの結果ではやっぱり広報誌が最も一番読まれてるというのがわかりまして、SNS認知というのはやっぱりそれよりは低いという

ことがあります。先ほども、若い人へのアンケートでは、SNS自体がすごく使われてるんです。それ自体は友達とのTwitterやとか、いろんなLINEでつながったりとかいうことあるんですけども、区役所が例えばTwitterで発信するとかいうことについては、先ほども説明させてもらったように、淀川区ではほかの区よりはまだいい数字なんですけども、ただ非常にちょっと厳しいところがあると、ただ、そこで先ほども1回説明あったと思うんですけども、昨年の6月の北部地震とか、9月の台風のときに、いろんな形でTwitterで情報発信したときには、かなりのフォローがありました。もう本当に数としてふだんの8倍ぐらいの数字が出てまして、いついつどこで避難所が開設されたとかいうところなんです。しかも、今例えば、阪急がとまってるとか、そんなこともいろいろツイートしたりしたら、それでやっぱりすごいアクセスがふえてるんです。やっぱり、どういう形でSNSを皆さんがどう使ってるのか、御自身もそうですし、例えば、家族が、子どもなどがどうやって使っているとか、それで行政も、こんな形で使ったらもっとSNSが有効にできるんじゃないかということをお聞きしたくて、ここで書いてるのがそうです。

今までも御議論いただいている中身なんですけども、ここでただSNSに特化して、本当に、先ほど盆踊りがどうしたらとかいう話もありましたけども、例えば、イベントの告知もありますし、例えば、今の臨時給付金が出ますよとか、いろんな形で、マイナンバーカードつくってくださいねとか、そんなのももちろんTwitterでささやいてるんですけども、まだまだ普及しないところもあると、そういういろんな形で行政が情報発信する中で、SNSがどうしたらさらにアクセスしてもらって有効かなということをお聞きしたりするのが、この下半分になりますので、こんなん書いちゃおかとか、自分の子どもや孫に聞いたら、こうやったらもっと区役所の情報が入るんじゃないかというのをお聞きしたような感じです。

○横山副議長

これ、そもそもTwitterとFacebookなんですけど、どなたが発信してるんですか。

○藏本政策企画課担当係長

広報担当です。

○横山副議長

広報担当お一人で。

○藏本政策企画課担当係長

Twitterは各担当部署で。例えば、きょうは金曜の延長開庁ですっていったら窓口サービス課がツイートするし。

○横山副議長

そのツイートの内容は誰かがチェックして発信するんですか。

○久保政策企画課長

各課のほうで責任持って発信してます。

○横山副議長

おもしろくないですよ。

○山崎市民協働課長代理

当たりさわらないです。

○横山副議長

ですよ。単純におもしろくない、おもしろいかおもしろくないかなんですよ、こういうのって、そこに、もしこういうのも、これは数の原理で、フォロワーが多ければ多いほど影響力が増えていきますから、増やしたほうがええと思うんです。増やすにあたっては、今現状どうなのかっていうことをまずしっかりと発信してほしいんです。というのが、せっかくこうやって1位なんですよ、今。これ多分、今知ったんじゃないですか、皆さん知ってました。Twitterは淀川区が24区の中で1位やと。でもそういうレベルですよ。だから、こういうことをもっと、淀川区1位なんです、わずか4,000ですけどね。でも24区の中では1位ですよ。それもみんな協力してもっと盛り上げましょうっていうのが一つと、もちろんそのためには内容を吟味

するのには、ひょっとすると民間のちょっと信用できる人に委託して情報発信側になっ
てもらおうとかいうふうにしないと、区の中やったら絶対に増えないですよ。おもしろ
くないもん。

○奥議長

僕も、今、自分で活動しているNPOなんかでも、コミュニティ開くのにLINEとか
で指導してるんですけども、そもそもLINEとかFacebookを受信できるように誰かが
教えてあげないと届かへんのです。まず、それを誰が教えるのっていう、もう今それ
じきなくなるよガラケーなくなるよって言ってる世の中で、じゃあ、ほっといたらド
コモやらがやりはるかもしれませんけれど、でも誰が本当にTwitterのアカウント、
どうやってフォロワーになったらええの、いうのを誰が教えるかということまず決め
ていかないと、増えるわけもない、もう一つ言うと中の魅力、公式で発信するよりも、
例えば、まちセンとかがワンクッションかんで、するとちょっとぐらい外せるのかな
という、あくまで公式の見解から発信するのかとうてしやあない、おもないわにな
る可能性もあると思うんです。だから、区役所の情報をかみ砕いて、第三者機関とか
がそのかわりに自分の言葉で発信してあげる、まあ一番理想はそれが地活協なんだと
思うんですよもちろん。でも、そういうふうにしないと、何か公式アカウントって自
民党のアカウントっておもしろくないんですけど、安倍晋三めちゃくちゃ欲しいんで
すみたいなもんなんです。だから、だって公式ってもらってもあんまり僕も見たくないわ
と思ってる。よどマガだけが別なんです。

○福岡委員

防災LINEつくられてましたよね。私あれ、すごくようけじゃないですか、ちょっとど
のぐらい。

○藏本政策企画課担当係長

今、3,400です。今のところ。

○福岡委員

まだそんなんですか。いや、私あれ、もっと皆さん入れてると思ったんだけども。ああいうLINEの防災ですわね、それを今度は子育てのLINEとかいうことで、ターゲットを絞ったLINEでいうのんしたら、防災でそれだけですか、意見言おう思たけど、あんまり、がくっとくるな。

○藏本政策企画課担当係長

ペース的に言うと、結構早いんです。Twitterはこれまで何年もかけて4,000とかそういうレベルなんで、ゆめさんが結構テレビで話題になって、それでもフォロワー数3,000とか4,000だったんで、一応、防災LINEの登録ペース的には役所の中では早いほうではあります。

○福岡委員

そやから、子育て、教育、何かそういうような分野ごとのLINEをつくって、自分が欲しい情報だけを入れれますよって言って、そういうLINEをつけたらいいんじゃないかな、というのは、僕は防災LINE気に入ってますねん、はっきり言って。

○山崎市民協働課長代理

ありがとうございます。

○福岡委員

はっきり言って。

○山崎市民協働課長代理

何も無いのがいい便りで、全然仕事してない。

○福岡委員

いや、そやけどちょいちょいあるんですよ。大阪市の防災LINEも入れてるんですけど、あれもちょいちょい違うことがぼっと入ってくるんです。言いたいことはね、防災以外のこと。

そやから、そういう、何かそれで、例えば、子育てLINEつくりましたよっていうのを防災のLINEにぼんと入れとくとか、1回目だけ。ぼんぼん入れたら趣旨が違ってき

ますから。何かそういうあれごとに、LINEみんなやりますからね、LINEだけはものすごいやるでしょと、3,000ですか、ちょっとがっかりくるな。

○中井委員

防災のやつはあれですか、ハザードマップなんかでも更新、去年やったみたいなん、更新なんかみんなされたときにぱっと入ってくるわけですか。そういうやつは。

○福岡委員

いやいや、通知がLINEで。

○山崎市民協働課長代理

防災LINEは、こういう警報が出て淀川区でここに避難所ができましたって。

○中井委員

そういう情報だけ。

○山崎市民協働課長代理

災害時だけです。

○福岡委員

こちらからは発信できないんですよ。

○山崎市民協働課長代理

双方向のやりとりではないんで。

○中井委員

ハザードマップとかそういう更新されたときに、そういうあれが情報が逆に入ってくるのかなと思ったんです。そういうことじゃないんですな、防災のLINEは。

○福岡委員

何か、そういうあれしたら、言うたら自分が、例えば子どもができた、ならここへ健診に行ったときに、こんなLINEがありますよ、これにしてあれしたら何かいい情報もちよいちよい入りますよという形で子育てLINE。今度は幼稚園行きました、小学校なら教育のLINEとか、そういうLINEを何個か考えてしたらどうでしょうかねいうのする

と、自然と見ますわね。

○奥議長

広報が一本してるところを、各担当課でそれぞれカテゴリー別で発信するというのは可能ですか。

○藏本政策企画課担当係長

できます。ただ、福岡委員もおっしゃってることも本当に多分そのとおりで、防災LINEも、若者というか私も30代ですけど、余計なLINEいっぱい入ってくるのうっとうしいから、そういうアカウントっていうのはすぐブロックされちゃうんです。欲しいやつしかいらんからというところで防災LINEは「必要な情報しか出しません」というPRをしてたんです。

自分、子育て中なんで、自分住んでるところの子育て中のLINEとかあれば入れたいなどかもありますし、やっぱり欲しいやつやったら多分みんな入るっていうのは、きっとそうなんですけど、既に、横山副議長から御指摘があったとおり、役所の側はあんまりおもしろい発信をできないというか、各課の職員のスキルが継続的に承継されないんで、属人的な発信力でしか使えなくて、それでFacebookとかも各課で発信して、あんまりおもしろくなかったりするんです。よどマガについては、広報担当が広報のプロの業者と作っているからおもしろくなるわけで、編集を最後まで広報担当でまとめてやるんです。何回も打合せしてやってるんで結構費用がかかっているっていうところもあって、区役所の力不足でなかなかチャンネルを増やすっていうのが踏み切れないところがあるんです。

○奥議長

地活協みたいなところにやれよって、できへんことやらせるのも同じで、区役所だって頑張ってみんなの課でやってるんですけども。

○福岡委員

例えば、今の言うLINEは、必要な時しか入れませんよやからね、しょっちゅう入れ

たらあかんわけです。こういうことがありますよぐらいでやから、いつ見ても同じことでもかまへんのですから、必要なときだけ入れますよと、こういう情報がありますよというようなことにしたら、自分が何を知りたいんかいうのは自然に入ってきますわね、自分から探さなくても。そういう意味でいいんちゃうかなという気がします。防災LINEが僕もう気に入ってるから。

○奥議長

子育て支援室なんかは、特に、町会加入の非常に薄いところになりますから、子育て支援室発信のチャンネルとか一遍ぼっと上げてみはったら、どれぐらい来るのかはサンプルとしては非常にいいのじゃないのかなとは思ったりします。子育てチャンネル淀川区みたいなやつがあれば、非町会員の加入というかかなり見込めるような気がします。

○藏本政策企画課担当係長

LINEって公式アカウントが自治体無料なんですけど、大阪市の公式アカウントが、さっき、奥議長のおっしゃった大阪市の防災LINEがとっちゃってて、うちの防災LINEってお金払ってやってるんです。LINEの本社にもかけ合っただけなんですけど、行政区では無料にはできないって言われたんで、ただ1,000人とか2,000人だったら数万円でできんこともないんで、そこは子育ての話については、担当課にも一回かけ合ってみます。なので、一回今回出た御意見として、区役所の中で、さっき出た中で言うと、子育てと教育支援というチャンネル別に、例えばLINEで大事な情報だけそこに絞って発信できるようなやつができないかっていうことで、各課に意見をもらいます。

○福岡委員

役所のTwitterとかFacebook、言われたように、もう初めからおもしろくないやろと思うから行かないと思うんですよ。そやから、悪いなこんな言い方して。

○横山副議長

すみません、意地悪な質問を、解答わかっててしてしもたんですけど、ならば、確

かに奥さんもおっしゃったように、公式でなかなかおもしろいものって多分もうできないじゃないですかなかなか、すると、さっきの数の原理を、例えば利用して今1,400人でFacebook3位やと、淀川区としたら、いつまでに1位にしたいと、そのためにはこの数が必要やと、これに協力してくれへんかみたいなことで、例えば、窓口でさっきの話とつなげると、冊子配るのと一緒に、やり方も含めて窓口と一緒にやりましょうってどんどん増やしていく、区のものはおもしろくないかもわからないけど、淀川区を1位にのし上げるために協力したっていう何かがあれば、ひよっとすると理解してくれる人もいてくれるかもわからない。フォロワー数が増えれば何かまたできることも増えてくるかもわからないんじゃないですか、そんな気がするんです。確かに、おっしゃるように、誰かがやってあげないとなかなかどう受けたらええねんとかいうのもよくわからないと思うんで、アカウントとかね。

○藏本政策企画課担当係長

逆に、さっき奥議長から子育てサロンの情報とかは、そういう子育て世帯に訴求力があるというお話もいただいてたりして、子育て世帯がいる若年層とかにどうやって訴求していこうかなみたいな話。

○奥議長

保育園の募集のタイミングなんか本当にわかりづらいですもんね。ですから、あの辺なんかは本当に皆さん欲しくて欲しくて、えっもう始まってんみたいな話になって、やっぱりママ友つくらないとそこが入れへんとかいうのも事情であって、やっぱり子育てさんがその情報を欲しがってはるのは事実。その反面、町会加入率が非常に少ない層であるのも事実です。

○福岡委員

よそから、例えば、この地域に移ってきた、私は西中島やから西中島に移って来られた方が、この地域はどんな地域なのかなというのを一遍見たいなというので、最初の人を見る可能性はあるかもしれませんが、来た人は。ずっと住んでるもんは見ない

かもわからんけども、来た人は淀川ってどんなところか、自分が住むところはどんなところ、今度そこに移るんやけど、どんな地域やろうなということで見に行く可能性はあります。SNSで。ですから、ここで挙げてるFacebookとかあんなんは、そういう人にはいいかもわかりませんね。

○山崎市民協働課長代理

公式おもしろくないですよ。

○横山副議長

それは申しわけないですけど、そうです。

○福岡委員

区役所というたらかたいから、かたいと思うから、行こうと思わないんじゃないかなど、よっぽど自分がこういう何か制度を利用したいから、やりたいと思うと、私はもしそれが、例えば、税金のあれやとかって調べて、書類がまたわかりにくくつくつてあるんです、実は。役所ちゃいますよ、税務署のあれとか、今回の軽減税率のあれでも、どこに入ってるかわからないんです。ものすごい枝が分かれてて、やっとたどり着いて、そこをもう一遍見ようと思ったらそこにたどり着けないんです、どうしても。それほどややこしいんですよ税金のあれは税務署は。

○山崎市民協働課長代理

どうしたものか。

○横山副議長

そういうのをわかりやすく解説できる、さっきちょっとヒントがあつて、淀川区役所の公式アカウントででけへんけども、例えば、夢ちゃんをキャラクターに置いて、夢ちゃんが説明するとか、夢ちゃんがアカウントの管理者でもあり、発信もできるってなれば、ちょっと外れたことできそうじゃないですか。それを夢ちゃんにやらせるとか、そういう税金の説明を。そんなんやったらちょっと子どもたち含めて興味を持って、角度が違うから見るんじゃないですかね。

○山崎市民協働課長代理

そんなにアカウントってとれるんですか。

○藏本政策企画課担当係長

アカウントは幾らでもつくれます。だから、各課がちゃんと管理できるかっていう話と、あるいは広報誌みたいに、その中からどうこうするのを、どこか広報担当なりでおもしろく加工して投稿するとかですかね。

だから、各課好きにやってますって言うから、情報がばらばらして統一感もないし、きっとおもしろくもない。多分、役所として発信したい情報を発信してる記事とか、あと受けを狙っていったる記事とか混在してるんですけど、だから、ちょっとよくわからない感じになっちゃってるんです。

○福岡委員

我々やったら、例えば、見に行くとき、役所のほうがやってはる、写真撮りに来てはったな、どない写ってるんか見よかって、そんな程度なんです実は今は。

○奥議長

今の災害防災のLINEの、どれぐらい加入参加率、参加数があるかなって話聞いたんですけども、子育てとかしても目標をつくってフォロワー数何人とか具体的に言うて、今こんなん、今こんなんとか言って、それこそ地活協とかに頑張って増やしてよというようなもので、そこまでして、やっぱりプッシュすることもしていかなきゃならないのかなとは思ったりします、具体的に。防災は結構プッシュしてはりますもんねチラシ配ったり。それでもこれかみたいな。

○横山副議長

ネットの世界で4,000とか、1,400とかもうへでもない数字ですもんね。

○山崎市民協働課長代理

8月1日に公式LINEつくったんですけど、そこでよく3,400いったなって自分で自画自賛じゃないですけど、でも気持ちはなくはないんですけど。

○横山副議長

18万の人口に対して、

○山崎市民協働課長代理

3,400かって感じで、どうしたらっていうのがあって。

○横山副議長

窓口で、入れ方を教えるっていう作業はやっぱり必要なんじゃないですかね。教えるときにQRコード読んだりするときには。

○福岡委員

防災LINEは、町会で大分宣伝したんですけどね、コピーして、私の町会ですけども、これが。

○山崎市民協働課長代理

QRのやつ。

○福岡委員

QRコードです。

○山崎市民協働課長代理

ありがとうございます。

○福岡委員

あれわざわざ。コピーしたやつをコピーしてもまだいける、取れましたよ。

○奥議長

さあ、そろそろ、ほか全般に振り返って、これはちょっとどうなのっていう経営課題の中身に関して意見等いただけますか。

○横山副議長

これは区民のための区役所づくりの項目の24ページなんですけど、区政会議の効率的な運営の、我々実際今そうなんですけども、継続的取り組みの中に、地域活動協議会から推薦を受けた委員である現状を維持って書いてあるんですよ。これ多分、

確かに18地域から推薦が挙がって、公募委員今4人ですかね。ちょっとそのバランスが、この継続的取り組みになったってどこで決まったんですか。

○久保政策企画課長

もともと22名が淀川区での委員の定数っていうのを決めてまして、基本的には地活協、一特定地域からの意見じゃなくて、やっぱり淀川区全体からの意見をいただきたいということで、やっぱり18の地域から一人ずつ出てもらおうということで、ただ公募の委員という形でも取って、適正な規模、数というような。

○横山副議長

という流れで流れがずっと続いているんですね、これ、区政会議始まって以来。

○久保政策企画課長

そうなんです。できるだけ、区によっては50人近い。

○横山副議長

以前から、ちょっとそこに疑問があって、おっしゃったそのある特定の区域からの意見に偏らないっていうところでいうとね、その区域から代表で推薦された方ってそのエリアのこと代表して意見言いはるんですよ。よりも、本来、全員が公募委員、もしくは企業の代表者、NPOの代表者とかが満遍なく、まちづくりというテーマに沿って集まるほうが効果的な意見交換できると思ってるんで、ちょっとここの継続的取り組みになってしまってることにすごい違和感があります公募委員として。私みたいな公募委員がもっと本来ふえるべきなん違うかなと思ってるのを、多分、私以前やらしてもうたときも同じ話はしてます。

○奥議長

僕も、地域の中で意見として聞いているのは、区政会議って行って何の意味があんのって、意味ないじゃんって、そんなん行っても無駄やからおまえ行っときみたいなんで来てるのがあったりするぐらい、あんまり評判よくないのは事実です。やはり、東淀川さんみたいに公募が多いと、やっぱりすごいわいわいやってはるっていうのをよく

聞きます。なので、別に給料払ってはらへんのやったら多いのも一度検討いただいてもどうなのかなと思ったり。

○横山副議長

私のイメージとすると、結局振興町会長会議になってるような感じを実際受けたんで、ならばそれはそれでやったらええのに、また同じようなことになってそうな気がして、例の挙がった東淀川区なんかは公募委員が事前に集まって、何を議論するかを決めて、そこに区の担当者も入って、本会議に臨むらしいんです。私の知り合いに聞くと、公募委員に入って区政会議に入ったことによって、私ひよっとしたら町をちょっと自分の力で変えられるかもわからんと、その可能性があったんですごい楽しい言わはるんです。そうなたらいいなと思って、で見たらこう書いてあったから、あららと思って質問させてもらいました。

○奥議長

確かに、公募の方っていうのは物すごい熱意を持って参加しはるケースが多いので、ですからそこも検討いただけたらどうなのかなというのが全体会議の中なんかでもちょっと意見してもいいのかなと。

○藏本政策企画課担当係長

一応、まず区政会議委員を、その地域推薦の委員を全区から推薦もらうっていうのは、全市的な方針でもう決まってて、これに対して、その1割以上の公募委員を参加させることっていう、これ条例で決まって、最低人数ですね、淀川の場合は2名なんですけど、一番最初に4名からスタートして、横山さんがいらっしゃったときから4名でスタートして、確かに横山さんいらっしゃったときに地域の会長がすごい多かったんです。今、だんだんだんだん代がわりして行って、今回の区政会議のメンバーは会長もほとんどいなくて、実務的なメンバーがそろってるんです。

公募委員は増やそうかなどうしようかなって、また次の改選のときにも聞こうとは思ってるんですけど、一応、前回のときに改選するときに、そのときいらっしゃった

皆さんに、どうでしょうかねって言うと、軽く聞くのは聞いたんですけども、事務局としても、募集のたびにあんまり応募が来ない中で、誰でもいいというわけではないので、現実的に4人ということになっています。

○福岡委員

公募委員さん増やすというのは別に反対しませんけど、やっぱり、地域活動協議会からの推薦ということは、私は今さっきおっしゃったように、地域とのパイプ役であるべきやと私は思ってるんです。地域活動協議会というのは地域の総意形成機能を持って、役所がどういうこと考えてるのか、それを地域に伝えるという役目が区政会議委員にあると私は思ってますから、必ず地域の活動協議会ではこれを報告してるんです。それを地域の、ここの委員さんはどうされてるんか知りませんが、私はこれはそういう役目やと見てますから、ここで発言するだけが役目じゃないと、地域に帰ってから発言するのが役目やと思ってますので、そういう形でやっていますけど。

○奥議長

よその区も多いところというのは公募が多いだけですよ、結局は。地域から2人かそういう話じゃないですもんね、公募が多いという。

○久保政策企画課長

ただ区によってばらばらで、例えば、地域の大学の人とか、どっかのNPOとかいうところももちろんあります。東住吉区かなんかそういうところ。

○奥議長

そうですね、そういう組織からもっていう方もありますよね。

○横山副議長

ベースに町会があって、さらに公募がたくさんいるから、そんなイメージになるんですかね。

○久保政策企画課長

各区の思いがあって、たしか条例上、最大それぐらいの。

○横山委員

最大もあるね。

○久保政策企画課長

実際50人ぐらいの感じの、ただ会議体として、2時間で全然一回もは発言はされてないと思いますので。

○横山委員

何で事前に何かその意見集約と、こういう意見してから臨むというのは。

○久保政策企画課長

そうですね。

○藏本政策企画課担当係長

各地域から全員出てきてる区というのは、そんなに多くないです。淀川は珍しいほうで、早くに各地域御協力いただいたんで18地域の皆さん出していただいているんですけども、何でそんな参加せなあかんねん、ほんとにもう出さへんというのは大阪市の中では割とほかの区ではあったりするんです。なので、淀川はうまくいってるほうで。ただおっしゃってるように公募委員のあり方というのは検討の余地があるかなとは思ってますんで、また東淀川区とも相談しながら、どんな感じでやってるのか参考に検討してみます。

○中井委員

すみません、言われましたように、ただ公募委員さんが、東淀川区の場合は今言われたように地活協、あるいは、振興町会、社会福祉協議会も私どもの地域では、ある程度一緒に、当然に役所の方が地活協の会議のときには出てきていただいてね。ただやっぱり、我々、今、私も今ちょっと会長はおりたんですけども、やっぱりパイプ役というか情報伝達というか、曲がりなりにも十分理解できなくってもそれなりにやはり情報伝達をして、その中でやっぱり会長なりに対応するっていうのが、私もこの席で先ほどスタートのときに言ったんですけども、ある程度そういう役目が大事なのか

など、それでお役所の方がどういうふうに、市役所の方あるいは淀川区役所がどう考えられてるのか、不十分にしても伝達する役目はあるとは認識してますので、だから、それをまた改めて会議のときにお話しいただいたら、できるだけ私も資料については会長なりに渡して、そういうこともやっていきたいなというつもり、牧さんは前回役所にずっと、これ個人的なことでおられた方なんで、十分御理解はされてる、私は外からいろんな役を会長なりいろんなことをやってた中で、民間の会社に勤めておりましたんで、なかなかそういう十分な理解が、大阪市も大阪府も外からしか見てなくて、大阪府庁が私は多かったですからなかなかちょっとできなかった。その辺のところ十二分に理解して、できるだけの情報伝達はしていきたいなと思っております。

○福岡委員

地活協のリーチの中において、地活協とはどういう機能を持たなければいけないのかいうのを理解してない人がまだいてるので、そやから、地活協というのは何の役をするんだということも、やっぱり役所はこういう考え方を持ってるということを知らせることだと思う。地活協の中では重要と思ってるんです。それに沿って、やっぱり地域活動協議会も動いていかなあきませんから。

○中井委員

ただ、僕、今言われたように、振興町会というのは歴史が古いでしょ、そうすると社会福祉協議会というのは別の団体で、ただ地活協というのは行政が変わって10年になるんですかね、

○山崎市民協働課長代理

24年25年からのことです。

○中井委員

ちょっと初回の際に私もいろいろ出たことがありますので、だから、その中で地活協のあり方というのは正直言って、条例なんかは税法上なんか私いろいろな申請したら、税務署とか大阪市税に言わせると、条例は生きとって地活協って言われる

と何かものすごく我々頭もう混乱してたんです。いろいろ地縁団体設立するときなんかね。それで、そういう地活協も何もかも全部抜こうと思って、地域の名前入れたら、いやそれは税法上対象じゃないです。条例皆生きてますよと言われて、ああそうですか言って、またそういう振興なんかの名前をわざわざ入れたっていう経緯があったんです。だから、我々も各論は全然わかってないところがあるので、正直言って、上のほうが出る、前の区長が全部委員会通っちゃったんです。ほんで押してもらって、広報出てから慌てて私バックして皆戻したんです。そんな経験があります。だから、言われたように、いじけてきてると言われたらほんまにお恥ずかしいあれなんやけど、正直言って、税法上のあれとかいろんな報奨金というか、いろんなあれをいただくっていう形の法制を変えられたんかなって、いろんな形の規則も会則も皆変えられましたんで、その当時に私も聞いて出席してたんで。

○奥議長

また地活協そもそも論が出ると、またすごい本当に、やっぱり長い間振興町会やってた方って、なかなか切りかわらないのも事実なので、これからまた議論進めていきたいと思います。

一応、時間となってきましたので、これはというところだけありましたら、最後にもう一言だけぐらい皆さん意見とか、質問しておくこと、区役所さんに聞いておきたいこととかありませんか。

僕、窓口サービスの向上っていうところで、本当に個人的で申しわけないんですけども、警察以外の行政も病院もみんなサービス業になっていってしまってるので、たちが悪いのがすごく多くなって、何でそんな3つ星目指すのかなっていうのがすごい気になって仕方がないんです。それは委託されてるパソナさんとかいいんです3つ星取れって言うんだったらわかるんですけど、あくまで公務員さんに3つ星何でっていうのすごい違和感持ってるの事実なんです。

余り、このサービス、サービスと言うのは、特に子どもたちが学校に対しても教育

サービスっていう形で子ども錯覚していくところもあるんです。なので、あんまりサービス、サービスっていうのちょっと僕違和感持ってるんです、個人的に。個人的で申しわけないんですけれども、あんまりサービス業に自らならないでいただきたいなと思っています。御意見として。すみません。

何か言っておきたいことありましたら、なければきょうのところはこれで時間となりましたので、一旦閉会という形で、あと、補足事項とかまた連絡事項とかお願いできますか。

○久保政策企画課長

どうもいろいろ、議長、議事進行ありがとうございました。

時間の関係で、きょう聞きたかったこと等ありましたら、この御意見票があります。表裏たくさん書ける形になってますので、今日いただいても結構ですし、また返信用の封筒でお返しいただいても結構ですし、メールアドレスも書いてますので、どれでも結構ですので、また整理の都合上、来週の金曜日1月24日までにお返しいただければ大変助かります。

あと、紹介名簿につきましても何か誤り等ありましたら、同じ形でまたお教えいただければと思います。

次回、全体会議を3月4日で予定しておりますので、お忙しいところ恐縮ですが、予定のほう入れていただけたら大変助かります。

本日いただいた区政会議についての意見あります。せっかく貴重なお時間いただいておりますので、来てよかったなというふうに最終的に思っていたくように、こちらも本当に工夫していきたいと考えてます。前回任期切れされた方が、最後に本当に感謝の言葉をおっしゃっていただいた方もおられまして、区役所はこんなに悩んでるんやなというのが割とよくわかったわとかおっしゃっていただく形もあったので、できるだけそういう形で、委員の方々が来てよかったなと、選ばれてよかったなというふうに、22人の方全てそういう形になるように頑張りますので、今後ともよろし

くお願いします。

それでは、これをもちまして、区政会議の部会を終了させていただきます。

本日は、どうもありがとうございました。

—了—